

巻頭言

特殊病害虫の防除に携わって

元鹿児島県農業開発総合センター **山** **口** **卓** **宏**



令和3年は九州本土において、ミカンコミバエ成虫がこれまでになくトラップで多数誘殺され、一部の県では幼虫の発生も認められた。ミカンコミバエをはじめ、ウリミバエ、イモゾウムシ、カンキツグリーンニング病等は、一般的に“特殊病害虫”と呼ばれ、未発生地では侵入警戒調査を実施し、誘殺や発生が確認された場合、迅速に防除対応がなされる。また、ミカンコミバエやウリミバエは、過去に南西諸島等で根絶防除事業が実施された。私自身、県職員在職中にこれら特殊病害虫の防除に携わる機会が多かったことから、その一部を紹介する。

昭和60年、私が入庁し最初に赴任した奄美大島の「ウリミバエ防除対策室」は、鹿児島県でのウリミバエ根絶防除の最前線の職場であった。昭和54年に開始された根絶事業は、昭和56年には喜界島で“不妊虫放飼”が始まり、赴任時には喜界島での根絶が間近で事業は順調に進められていた。職場は事業に関して、自由な発想で取り組める雰囲気とバックアップがあり、国(植物防疫所)や市町村、関係機関との調査や会議等の機会も多く、連携、協力体制が非常に整っていた。また、事業に関して地域住民への周知と理解が行き届いており、集落内での調査時に不審者と間違われそうになったときも“ウリミバエの調査です〜”の一言で、ほぼすぐに理解が得られ、調査をスムーズに行えたことを覚えている。令和元年10月、奄美群島からウリミバエは根絶された。

平成23年、病害虫防除所勤務となり、指宿市でのイモゾウムシの根絶防除にも、わずかではあるがかわることになった。平成20年11月、鹿児島県指宿市において、イモゾウムシの幼虫、蛹が本土で初確認されたため、初動防除実施後、21年8月から緊急防除が開始された。イモゾウムシは成虫が3~4mmと非常に小さく、有効な性フェロモン剤がないため、寄主植物調査がモニタリングのほぼ唯一の手段となる。また、サツマイモの大産地に近いこともあり、当初、根絶はかなり難しいとの意見もあった。防除手段としては、サツマイモをはじめ、寄主植物の徹底した除去を行った。いわゆる“兵糧攻め”である。まず、イモゾウムシ発生区域410haのサツマイモをほぼすべて回収した。次に、ノアサガオなどの野生寄主植物の除去を開始したのだが、翌春、一般住民に十分な防除方針が認知されていなかったため、家庭菜園を中心に防除区域内で次々とサツマイモの栽培が確認された。ここで活躍したのが、地元の市民を雇用し編成し

た二十数名の“イモゾウムシ等防除班”である。いわば防除の実戦部隊である。この実戦部隊と市、防除所等の関係機関が中心となり、住民への交渉を粘り強く行った結果、これらのイモの回収に協力が得られた。その後、この実戦部隊は、地域住民と対話しながら寄主植物の除去作業を粘り強く続け、防除区域内の寄主植物除去を成し遂げた。さらに、指宿市が市独自で防除条例を制定し、防除区域内でのサツマイモ栽培を禁止したことが、根絶を強力に推進することになった。平成24年2月、指宿市でのイモゾウムシ根絶に成功した。

平成27年、三度目の奄美大島での勤務時に、ミカンコミバエの緊急防除にかかわることになった。ミカンコミバエミバエの誘殺あるいは幼虫確認に際し、発見地点では、トラップの増設、寄主植物調査およびテックス板(誘殺板)設置による“雄除去法”での防除を実施したが、次第に広域的かつ同時多発的に誘殺が見られるようになり、植物防疫関係者だけでは対応できず、他部署からの応援が必要となり、非常に労力を要した。また、奄美大島ではすでに根絶後36年が経過し、当時を知る人はわずかであり、誘殺当初はやや警戒感が薄れていたかもしれない。山間部へのヘリコプターによるテックス板散布を境に誘殺数が大幅に減り、平成28年7月に根絶が確認された。根絶後、農林水産省はこのときの経験を活かし、ミカンコミバエ種群誘殺時の対応マニュアルを作成し、誘殺時等の初動対応の迅速を図った。このマニュアルは、現在「九州におけるミカンコミバエ誘殺時の対応マニュアル」へと改訂され(令和4年3月)、より実践的なものとなっている。

これら根絶、緊急防除を通じて、まずは市町村等の関係機関と迅速に情報共有を行い、十分な理解と協力を得ること。次に、防除に際し、地域住民に対して丁寧な説明に努め、信頼関係を築くことが最も重要と感じた。また、地域住民への周知は、侵入警戒調査を行ううえで、早期発見につながると考えられる。

現在、植物防疫法の一部改正が進められており、侵入調査事業の実施および緊急防除の迅速化等が概要として示されており、有害動植物の侵入、まん延リスクが増加する中、その対応も変化し、重要性もさらに増している。今後、植物防疫関係者の担う責務がさらに増すと思うが、一層の活躍にエールを送りたい。

(鹿児島県農業環境協会 事務局長)